

# 令和5年度自己評価結果公表シート

青英幼稚園

## 1. 本年の教育目標

- ◇ 基本的な生活習慣と正しい生活態度、(挨拶、言葉遣い、整理整頓、交友関係、お話を聞く態度等)、集団生活に必要な協調性を養う。
- ◇ 何事にも集中して粘り強く取り組む姿勢を養い、成し遂げた喜びと満足感が自信になり、さらに積極的で明るい性格に育つように導く。
- ◇ 体育・徳育・知育の総合教育を偏りなく実施し、幼児の未知なる可能性と伸び伸びした豊かな心を育む。
- ◇ こどもたち一人ひとりが主体的に考えて、行動できる環境づくりを行う。

## 2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

- ◇ 教育の資質向上への取り組み
    - ☆教育課程の内容を確認し、全職員間で各園児の指導の課題点を話し合う機会を増やすと共に、積極的に研修に参加して保育技術向上を目指す。保育の指導案の見直しも行う。
    - ☆発達面や気にかかる事がある子どもについて知識を高め、それぞれに合った方法を見つけていく。
    - ☆自分で考えて、自分で行動してみる機会を増やし、主体的に行動できる環境を作る。
  - ◇ 食育活動の充実
    - ☆ 園庭で野菜の栽培、収穫を通して自然の恵み・いのちの大切さに気付く。
    - ☆食育に対し子どもも職員も知識を深める。絵本や紙芝居等の視覚からの知識だけでなく、実際に育てること収穫すること調理するまでを知る機会、経験する時間を設ける。
- 【施設環境の向上】
- ◇ 園児にとってより安全で清潔な環境を整えていく。
  - ☆ 昨今の社会情勢や環境の変化に合わせて施設・園庭の改善修理を行い、園児にとってより安全で清潔な環境を整えていく。

## 3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	評価	取組状況
教職員の指導能力向上	A	<ul style="list-style-type: none"><li>・ ZOOMやWEB視聴を活用して各種研修会に参加し、キャリアアップ研修にも積極的に参加した。</li><li>学んだことを全職員が共有することで、専門分野への知識の向上に努めている。</li><li>・ 年間を通じて専門の先生に指導を受けることで技術向上をはかる。</li><li>・ 刻々と変わっていく情勢を敏感にとらえ、必要な知識を職員間で共有していく。</li></ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎日の終礼で報告連絡ノートを使い、日々の子どもの姿、又は保護者の方からの意見・要望について、報告・連絡・相談の場を設けて情報を全員が共有する環境を作っている。</li> </ul>
園児に接する時の基本姿勢を周知徹底	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特に、言葉遣いの適正を意識し、親切かつ丁寧な接し方を再確認の上、常に教職員が手本となり行動で示す。</li> <li>・ 一人ひとりの子どもの長所を認め、教諭が公平かつ客観的に園児を見る目を養うように努める。</li> <li>・ こどもたち一人ひとりの主体性を尊重し、自ら選び考える機会を増やしている。</li> </ul>
防犯対策	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 避難訓練内容の見直しやマニュアルの再確認、フローチャートの役割分担内容把握に努めました。また防災グッズの見直し、職員人数が変動しても全職員が対応できるように引き続き取り組み続ける。</li> </ul>
食育に関する実践	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 食育活動の中で、視覚からも理解できる活動（ペープサートや絵表示の掲示など）を増やし、手洗いうがい、食事の挨拶・マナー等、良い習慣を常に意識した指導を心掛ける。</li> <li>・ 旬の食材を生かし年中行事に応じた季節感を感じる献立の作成、保護者向けの給食だよりを発行し、食に対する関心を高めるようにしている。</li> <li>・ プランターで野菜を栽培し、成長を喜びのちの大切さを知る給食でも苦手な食べ物も口にしようとしたりする。</li> </ul>
保育終了後の延長保育 早朝預かり保育 休園日の預かり保育	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子育て真最中の保護者にとっては、育児・家事・就労を連立させることは大きな壁であり、大きな負担ともなっているため、現代社会において求められるニーズの幅を拡大する。</li> <li>・ 保護者の就労の有無にかかわらず利用できる“休園日の預かり保育”を実施して、時間的にも気持ちの面でも余裕を持って子育てに向き合えるように、子育て支援を拡充しています。</li> </ul>
幼稚園の情報を発信 家庭との連携と支援	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 園の教育方針や取り組み状況をホームページや園だより、配信メール・その他のプリントで情報発信している。</li> <li>・ 個人懇談会を行っている。</li> <li>・ 各行事ごとに保護者アンケートを実施し保護者の方の意見を聞き改善・反省を行っている。</li> <li>・ 1,2才児クラスは園での様子（食事・排泄・午睡）を毎日担任から保護者へ伝えてきた。 （れんらくノートを使って毎日のやり取りができるようにしている。）</li> <li>・ リニューアルされた HP のブログを活用し普段の保育の様子を保護者に伝えられるようにしている。</li> <li>・ 園見学や園庭開放を積極的に行い、沢山の方に参加してもらうことが出来たので、今後も地域の方から身近に感じてもらう園づくりを意識したい。</li> </ul>

小学校との交流	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度より、小学校との交流を年に2回実施した。年長児は、小学校の雰囲気や実際の小学生の姿を見て不安だった気持ちが少し安心感に変わったようだった。保幼小の接続研修にも積極的に参加し、小学校の先生とも交流を深めることが出来た。</li> </ul>
---------	---	---

#### 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

評価 A	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員各自が保育や役割を学年ごとに振り返り、自己評価を行う機会を設けました。</li> <li>職員同士で話し合い、意見を出し合う中で方向性や目的を共通認識できるように工夫してきました。 様々な書類や確認事項等は全職員で点検することで意識をもって取り組みました。</li> <li>こどもが自分で考えて、自分で選ぶことで、切り替えがスムーズに行えたり自分でルールを守ろうとする姿も見受けることが出来て、環境を整える大切さを再確認しました。</li> <li>環境整備を整えるなか、改善点を見つけ実行しました。 (プールの塗装直し、水道の欠けて危険だった場所の修復工事、保育室内の危険箇所にはスポンジ材で補強)</li> </ul>
------	--

#### 5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取組方法
安全管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>不審者への対応方法など、職員研修や外部研修を利用して知識を深めていきたい。</li> <li>危機管理マニュアルの見直しをすると共に、危機管理研修を行い、職員への意識づけを高める。又、避難訓練を月1回行い、目的を明確にした訓練を引き続き行います。</li> <li>消防法第8条(防火管理者)により、防火管理者を定めて防火管理を行っている。</li> <li>遊具の点検及び園舎・園庭などに危険な箇所がないか日ごろから管理に努めている。(定期的に点検記録を継続していく)</li> <li>消防署の指導も受けながら AED・救命救急を学び、避難訓練の内容充実を図る。</li> <li>(消防署主催の救命救急講習を全職員が受講できるようにする)</li> </ul>
自然災害時の危機管理体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>非常時の危機管理について、子どもの引き渡し方法を含めた災害対応マニュアルを定期的に教職員間で確認を行う。</li> <li>常に最新のニュースや気象情報を得られるような環境づくりを実施。</li> <li>定期的な避難訓練と共に、災害時の食料や水、薬品類の備蓄などにも留意する。</li> </ul>
保護者への情報提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>改善すべきところは、的確かつ迅速に修正する。</li> </ul>

指導計画の編成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当園の教育方針に則り、子育て中の保護者が期待するところを把握し、園を取り巻く環境や子どもの実態に即した新たな指導計画の編成に取り組んでいく。</li> <li>・ 法令の改訂の内容を把握して指導計画を組む。特に年長児にあたっては、「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」を参考に個々の具体的な姿を捉え小学校との連携を図る。</li> <li>・ 主体的に活動できる工夫や、環境づくりを学び生かしていきたい。</li> </ul>
食育に関する実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 引き続き野菜の栽培を実施し、野菜の種類も増やしていく。食育に関する知識向上を目指す。また、子ども達が調理に携わる、見学する機会を設ける。</li> </ul>